

* 乗鞍コロナ観測所から長尺計算尺・普通の計算尺を収蔵

乗鞍コロナ観測所が2009年度で観測を終了し、閉所作業が進んでいる。その作業の一環として25cm コロナグラフを三鷹に撤収するために乗鞍コロナ観測所閉所作業に参加した。その際、いろいろなものをアーカイブ室として蒐集したものの中に計算尺がある。

今の若者は計算尺という言葉を知らないものもいる。当然使ったことが無いらしい。我々の世代では対数を習う時、計算尺を使って計算する方法も習ったものである。今回、アーカイブ室にいただいた計算尺はずいぶんと長いもの1本と筆者が使ったサイズ(以下、普通サイズと書く)のもの2本である(写真1)。



写真1 上が長い計算尺、下の2本が通常長さのもの

普通サイズのものには25cmの長さの中にメモリが刻んであるが、長尺のものは50cmの長さの中にメモリが刻んである。そして今回収集した長尺のものは、上の斜めになった部分がcmの物差しになっており、手前の壁面がインチの物差しになっている。

また、長尺の計算尺は、普通サイズの計算尺のA、B、C、Dメモリ、C1メモリがあり、Aメモリの上にAメモリの10倍スケールのメモリ、Dメモリの下にDメモリの10倍スケールのメモリが刻んである。移動尺の裏はS、S&T、Tメモリになっている。

計算尺は専門の用途によっていろいろなメモリが刻まれたから、この長尺の計算尺もその道の専門家用のメモリになっているのであろう。

長尺の計算尺は珍しいので収蔵品にくわえさせていただく。国立天文台の前身の東京天文台のある時代には、天文計算室というのがあり、部屋いっぱいの女性たちがそろばんをばちばちやっていた時代もあり、手回しの器械式計算機をガチャガチャとやっていた時代もある。そして電動機械式計算機が導入され始めた頃、筆者は天文台に入った。国立天文

台歴史館には天文台の歴史的な計算機として手回し器械式計算機（タイガー計算機）、電卓（写真2）のほかに対数表（写真3）も置かれている。



写真2 左が天文台で使われた電卓類、右が手回し機械式計算機（タイガー計算機）



写真3 タイガー計算機の右におかれているのが対数表

計算尺は、天文計算室では使用されなかったかもしれないが、重要な計算の道具ではあった。そろばん、計算尺も天文台の計算の道具としてアーカイブに加えるつもりである。